

(1 1) 生徒指導研究会

会 長 宮崎 平 (西土佐小)

副会長 中川 智之 (中村中)

事務局 田中 祐人 (具同小)

1. 研究主題

「組織的に対応できる生徒指導のあり方」

2. 研究経過

実施年月日	研究のあらまし	会場	備考
令和 4 年 8 月 5 日 (金)	夏季研修会 ①スクールカウンセラーによる講話 「不登校の現状と効果的な支援について」 講師：小松 宏暢、八木 渚、今倉 茜 (高知県教育委員会 人権教育・児童生徒課) ②四万十市少年補導センターからの報告 「四万十市の現状」 講師：滝口 雅寛 (四万十市少年補導センター)	中村中学校	16 名参加

3. 夏季研修会

1. 日 時 令和 4 年 8 月 5 日 (金) 8 : 45 ~ 11 : 00

2. 会 場 四万十市立中村中学校 図書室

3. 日 程 開会 (8 : 45)

スクールカウンセラーによる講話と協議 (8 : 50 ~ 10 : 15)

四万十市少年補導センターからの報告 (10 : 30 ~ 11 : 00)

閉会 (11 : 05)

4. 研修内容

今年度の夏季研修会では、高知県教育委員会 人権教育・児童生徒課より小松 宏暢、八木 渚、今倉 茜カウンセラーを講師に招聘し、研修前半は不登校の実態や対応について、講話や事例を踏まえたグループでの協議を行った。研修の後半では四万十市少年補導センターの滝口 雅寛先生を招聘し、四万十市の児童・生徒の現状を中心に、実際に四万十市周辺の写真や SNS に関するアンケートの集計結果の報告をしていただいた。

不登校の現状と支援についての講話では、不登校児童生徒数が年々増加傾向にあることや中学 1 年生を境に一気に数値が上がっていることを教えていただいた。また、1000 人当たりの不登校児童生徒数を都道府県別に見てみると、高知県の数値が 25.2 と全国でも高い数値になっていることが分かった。不登校のきっかけとしては、小学校は無気力・不安が 41.1%、親子の関わり方が 16.7%、生活

リズムの乱れ・あそび・非行が 10.3%となっており、中学校は無気力・不安が 39.5%、友人関係をめぐる問題（いじめを除く）が 17.2%、生活リズムの乱れ・あそび・非行が 8.6%となっており、中学校段階では友人関係の中で SNS 等の問題も関わっていることを教えていただいた。グループごとの協議では、不登校の架空事例をもとに、どのような対応や支援が考えられるかを検討するなど充実した研修を実施することができた。

不登校支援のポイントとしては、不登校の児童生徒が回復過程のどの段階にいるのかを見立てることや家庭訪問・電話連絡によって関係性の構築に努めることが大切だと教えていただいた。また、スモールステップを心掛けること、初期段階では背景の問題解決を早急にすることが重要だと学ぶことができたので、各校で学んだことを生かして不登校生徒と向き合って改善していきたい。

四万十市少年補導センターの滝口 雅寛先生からの報告では、四万十市内の小学生の公園での過ごし方を中心に講話していただき、近年、公園でのマナーも良くなっていることを全体で共有した。また、どこの公園なのか、公園の特徴の画像を見て、駐輪マナーやゴミのポイ捨ての多い公園の特徴を全体で確認した。公園近辺の学校での声掛けや、公園での過ごし方について、それぞれの学校で指導できる内容だった。



4. 今年度の成果と課題

新型コロナウイルスの影響もある中、夏季研修会では講師の先生方をはじめたくさんの方々にご協力いただき、講話やグループでの協議、情報共有を通して各校の先生方と交流して大変有意義な研修を行うことができた。今回の研修内容を各校に持ち帰って共有し、不登校児童生徒への効果的な支援や、SNS 等の問題解決・未然防止などに努めていかなければならない。

今後も四万十市教育研究会の夏季研修を通して、研究主題である「組織的に対応できる生徒指導のあり方」について各校の先生方との学びを深め、日々の学校現場で実践していきたい。

